

個人フッ素洗口法の継続について

○松本 光恵、國武 哲治、柏木伸一郎、
立川 義博*、中田 稔*、中村 譲治**

小児歯科柏木医院、* 九大・歯・小児歯
** 福岡予防歯科研究会

我々は、第10回日本小児歯科学会九州地方会において、当医院でのフッ素洗口の現状を報告した。

その中で問題となったのは、洗口の中断者が約40%という点であった。中断の原因は、医院サイドと患者サイドの両方が考えられた。医院サイドの問題は、洗口者の実態を充分把握していない点であった。これを改善するため、フッ素洗口カルテを作成し、継続の有無、洗口液の残量及び新生う蝕の有無等を定期健診毎にチェックするようにした。

患者サイドの問題は、面倒である・忘れるという理由であった。そこでこれらに関しては、フッ素カレンダーとプレゼント（次回健診まで洗口を継続した子供に対して）を実施し対応した。また、保護者と子供達の意識向上を図るため、年3回の会報発行も合わせて行った。

この結果、中断率は38.7%から5.5%に減少し、改善の効果が認められた。今回特に、中断率が改善した要因の内、患者サイドの要因を知る目的で、保護者へのアンケート調査を実施した。アンケート内容は、継続の助けとなった項目、継続する上での問題点及び中断理由である。この結果を踏まえ、今後とも中断者を減らし、フッ素洗口継続の努力を重ねて行こうと考えている。

当院における歯周疾患の管理について

○松田久美子、中野かおり、林 亮子、
柏木伸一郎、立川 義博*、中田 稔*

小児歯科柏木医院、* 九大・歯・小児歯

近年、学童の齲蝕は、僅かながら減少傾向にあるが、歯周疾患は逆に増加傾向にある。小児の歯肉炎はほとんどⅢB期以降に発症するが、この時期は、永久歯交換期で、形態的にもブラーク除去が難しく、又自分自身によるブラッシングも充分確立されてないため歯肉炎に罹患しやすい時期である。

当院においても、重症齲蝕の減少にともない、歯周疾患がここ2~3年問題となってきた。そこで、上顎側切歯萌出から永久歯列完成までの間に、歯周疾患の兆候、又は、歯周疾患を有する者を対象に管理を開始した。

管理間隔は、ブラッシング及び症状の改善が見られるまで1~2ヶ月毎とし、改善しない場合は、P.M.T.C. (Professional Mechanical Tooth Cleaning) を合わせて行っている。指導内容は、ブラッシングの習慣化や、磨き方の指導を主とし、併行して歯科的知識の向上や意識の改善のため、チャートによる動機付けを行っている。

今回、管理内容を紹介するとともに、管理法及び対象患者の問題点を検討したので、あわせて報告する。